

## 研究会・シンポジウム報告

2024年1月20日（土） 定例研究会報告

テーマ： 関東大震災と軍隊の対応—制度的な背景を中心に—

報告者： 吉田律人（公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜都市発展記念館  
主任調査研究員）

時間： 18時-19時半

場所： 専修大学社会科学研究所会議室（神田キャンパス）

参加者数： 7名

報告内容概略：

佐藤よりグループ研究の主旨や狙いを説明した後、吉田律人氏より、軍隊の「災害出動」制度の確立過程（明治維新と政府直轄軍の創設、立憲国家と軍政改革、1888年の衛戍条例制定、1891年濃尾地震時の第3師団の出動における被災者救助・消火活動・救援物資の供給・救療活動等、1907年の大水害における軍隊活用論、1909年大阪大火等と軍隊の災害出動制度の確立、1910年関東大水害や1911年吉原大火等における軍隊の災害出動の展開、1923年関東大震災と軍隊の初期対応や戒厳令の適用等）について報告いただいた。報告後、吉田氏の軍事史研究の経緯、法律の制定過程についての資料、軍隊とジェンダーの関連等について質疑応答やディスカッションが行われた。吉田氏は、海軍の救護活動、関東大震災後の災害出動制度についても詳しく、それらについては機会をあらためてご紹介いただきたいことが話題となった。

記：専修大学ネットワーク情報学部・佐藤慶一

2024年1月24日（土） 定例研究会報告

テーマ： 石巻市の復興公営住宅に関するフィールドワークとヒアリング

報告者： 佃悠（東北大学大学院工学研究科准教授）

時間： 13時-19時

場所： 石巻北上地区総合支所等

参加者数： 4名

報告内容概略：

東北大学の佃悠准教授（建築計画学）のアレンジで、石巻市の復興公営住宅の現地視察とヒアリングを行い、視察後に、佃准教授と研究会メンバーでディスカッション行うという形式で、被災地での定例研究会を行なった。石巻市北上地区総合支所にて、一般社団法人ウィーアーワン北上代表理事にヒアリングを行い、その後、にっこり団地などを視察した。その後、渡波地区の復興住宅、新立野住宅を視察し、新西前沼住宅にて、団地会長ご夫婦及び石巻じちれん事務局にヒアリングを行なった後、石巻市内でディスカッションを行なった。にっこり団地は、単身高齢者の要望に応じて、木造平屋で長屋タイプの復興公営住宅が整備され、畑が設けられたり、縁側を介しての交流をつくる工夫がされていたりした。新西前沼第三復興住宅は、1階部分が共助型として設計され、多目的スペースなどの共用空間が整備され、入居者同士の見守りや助け合いをつくる工夫がされていた。単身高齢者の住まい方についての進んだ取り組みをうかがいつつ、能登地震の被災状況や復興の方向性について議論が及んだ。

記：専修大学ネットワーク情報学部・佐藤慶一

2024年2月5日（月） 定例研究会報告

テーマ： 関東大震災と女性

報告者： 浅野富美枝（宮城学院女子大学客員研究員）

時間： 18時-19時半

場所： オンライン

参加者数： 5名

報告内容概略：

佐藤より研究会の主旨や狙いを説明した後、浅野氏より、関東大震災における被災女性の状況、女性たちによる救援・支援活動、被災地の女性たちのネットワーク形成、関東大震災後の国防婦人会の被災者支援活動、被災地の女性ネットワークの意義と限界などについて報告いただいた。具体的には、福田徳三による男女別の失業者調査により顕著な男女差が見られたことや女性のための労働政策提言があったこと、性被害が多発していたこと、愛国婦人会がいち早く動いたこと、東京連合婦人会や横浜連合婦人会が誕生し被災者支援活動が展開されたこと、その後は国防婦人会が被災者支援活動の中心的な担い手となっていったこと、今日から見ても先進的な被災者支援が実施されたが記録され後世に伝えるという面で十分ではなかったなどが紹介された。報告後、不戦運動や廃娼運動への展開、当時女性たちが残した記録、浅野氏の書籍や論文等について質疑応答やディスカッションが行われた。

記：専修大学ネットワーク情報学部・佐藤慶一